

2024 年度県立広島大学地域戦略協働プロジェクト（三原市） 報告書

地域基盤研究機構・上水流久彦

1. プロジェクト名

三原市「働きやすい社会をめざす職場環境調査」及び「女性活躍推進に関する意識調査」の分析から見る、今後の女性活躍の具体的な課題解決の取組について

2. 実施概要

- (1) 三原市の広報誌にインタビュー協力をお願いを掲載する等して、三原市内に勤務する（勤務経験のある）主に 20 歳代・30 歳代女性 12 名を対象に 2024 年 6 月から 7 月の期間に三原市で働く環境について話を聞いた。

・インタビュー協力者の属性

- ①企業規模 公的機関・大企業 3 名 個人事業主 3 名 零細・中小企業 6 名
- ②雇用形態 正規職員 11 名 非正規職員 1 名
- ③子育て経験 子育て中 7 名 子どもなし 5 名
- ④未婚・既婚 未婚 4 名 既婚 8 名

- (2) 広島県と三原市で共催する「令和 6 年度広島県男女共同参画講演会」を本事業の一環として実施した。

3. インタビューに基づく三原市役所の今後の取組についての提案

- (1) 三原市内企業への性別役割分担解消に向けた啓発活動
 - ・女性に対するお茶くみや日々の清掃、お土産配りなどの役割の廃止
 - ・育休・時間給などの有給・生理休暇等が性別に拘わらず取りやすい職場環境の醸成への支援
 - ・モデルやメンターなどの配置
- (2) 子育て世代へのサポート
 - ・子育て世代が気軽に行ける場所づくり
- (3) 男性向け啓発活動
 - ・家事育児における性別役割に関するセミナー実施
 - ・パートナーとともにうけるセミナーの実施
- (4) 女性への差別的言動をなくすための啓発活動
 - ・「女性には仕事を任せられない」という認識の改善
- (5) 三原市内企業への先進事例などの情報提供
 - ・女性が働きやすい環境作りをしている企業の制度等の紹介
- (6) 女性の声を聞き続ける取組
 - ・会社には言えないことを匿名性が守られた形で市役所が聞き取る継続的取組

4. インタビューから見てきたこと

* 意見は発言内容を上水流で統合・整理したものととなります。

(1) 女性に対する過重な家事・育児負担の解消

①家事・育児における負担の多さ・女性への圧力→仕方なく正規からパートの仕事へ
意見・既婚女性のインタビューではほぼ負担の多さについて指摘がなされた。

- ・男性パートナーが家事・育児をしている場合でも、女性側から見ると不十分であることが多く、女性の評価と男性の自己評価にはズレがあった。
- ・主体的に関与する姿勢（手伝うではなく）への要望もあった。
- ・家事・育児のパートナーの負担の点で満足度が高い女性の回答では、男性パートナーとの頻繁なコミュニケーションが見られた。

②男性パートナーの有給・育休取得の容易さ意見・夫が会社で有給や育休などを取りにくい環境にある。参観日に行ったことがない男性もいる。

- ・育休（二週間）を取った同僚が一週目で勤務に戻された。

(2) 柔軟な勤務のあり方の必要性 女性への育児負担の多さへの悩み

①副業可能な環境

意見・育休期間の給与低下への対応として副業がしたい。

- ・子育て中の時短はいいが、給与が下がるのは困る。
- ・副業が可能となり、職場を辞めることを踏みとどまった。

②時間給制度・育児勤務制度・フレックス制度等の整備

意見・柔軟な働き方が可能となり、助かった。

③テレワークの拡充

意見・育児や家事があるなかで柔軟な働き方ができるので良い。

④時間給・休暇・生理休暇の取得のしやすさ

意見・職場環境の満足度では、時間給・有給休暇を取得しやすい雰囲気の醸成が重要である。

- ・生理休暇があっても取得を男性上司に言うのは難しい。取りやすい形にしてほしい。
- ・体調に基づいて働ける制度や職場環境は良い。

(3) 女性へのアンコンシャスバイアスの解消

①男性職員の対応を望む声へのモヤモヤ

意見・「あなたではなく男性を」と言われたことがある女性も複数いた。

- ・そのような発言を日常茶飯事と話す方も一名いた。

②男性との働き方の違い・制限へのモヤモヤ

意見・男性と同様に営業等もしたいと思うが、女性ということで最初から排除されている。

- ・力仕事など任せられないと最初から考える人もいる。
- ・男性に比べて給与の安さが納得できない。
- ・一般職と総合職とにわけなくても良いのではないか。

③パートナーへのモヤモヤ

意見・授業参観など子どもの行事への参加は母親の役割と当然のように思っている。

- ・育休を取る気が最初からない。

- ・「自分が何かする（例えば、ご飯をつくる）から皿洗いはして」という方式で家事分担ができるようにしている。→パートナーへの気遣い。
- ・女性はある家事を選べないが、男性は選べる（食事はつくらない等）。
- ・職場環境を見るにパートナーに育休を期待できない。

（４）職場環境への要望

①お茶やお土産配り、日々の掃除など根拠のない女性の役割へのモヤモヤ

- 意見・これらの役割を当然のように女性にさせている。
- ・今の時代違うよねと言いつつ、変わらない職場はおかしい。

②モデル・メンターの存在

- 意見・産休をとってさらに働くというモデルがいない。イメージがわからない。
- ・どういう休みがあり、出産後どう復職したかなどがわかる方がいれば良い。
 - ・産休後自分がスムーズに仕事に戻るか不安な部分もある。業務が変わった場合に新たなルールがわからず不安。
 - ・仕事について相談できるメンターがいれば良い。
 - ・元のポジション（業務）に戻ることが前提なので良かった。

（５）三原市で働くことへの不満

①三原市以外で働くことを検討

- 意見・同じ仕事でも給与が他の市よりも安く、他都市での仕事を探している。
- ・技術向上ができない。高度な技術が求められる職場への転勤を考えている。
 - ・「三原じゃけ～」と言われて給与の安さの話が終わる。
 - ・シングルマザーでも子どもを育てられるだけの給与が欲しい。
 - ・レディースデイなどを「女性は優遇されている」というが、そもそも男性と女性の給与の格差を知らない男性も多い。

（６）育休に関する意見

①男性の育休への考え方の改革

- 意見・男性自身も育休をとることをライフプランの中でいれるべき。子どもがほしい女性は育休取得を頭にいれてキャリアを考えている。
- ・一ヶ月の育休取得で取得したというのはどうだろうか。むしろ、毎週水曜日は育児休暇にするとか、定時で帰られるようにするなど長期的に育児に関われるようにすべき。

（７）三原市における子育て環境に対する評価

①子育てしやすい

- 意見・ラインなどで情報が適宜来る

②子育てしにくい

- 意見・子どもがいる家族が気軽に集える場所がない。福山などに行く。
- ・小さい子どもを抱える母親のサポートがあれば良い。

（８）その他

①日本社会全体の変化

- 意見・社会全体のあり方（大構造）が変わらないと変わらない。職場、家族、自治体の制度など